

中学校最後の体育祭を終えて

体育祭とその取り組みを振り返り、作文を書きました。どの作文にも、取り組みの充実感、当日の達成感や感動、うまくいかずに悩んだ葛藤などが素直に表現されており、どれだけ努力したか、どれだけ熱い思いで体育祭に臨んだかが伝わってきました。教室に掲示していますので、仲間の作文もぜひ読んでみてください。

学年練習、予行練習の後、正直なことを言うと本番も3位だろうと思っていました。長縄の圧倒的な回数の差、学年種目やリレーのどれだけがんばっても埋まらない差。多分、皆がそう思ったはずです。ですが、三冠をとって他の組を圧倒しての優勝。とてもうれしかったです。

このとても良い結果で終われた体育祭、思い出に残っていることが3つあります。1つ目は長縄と学年種目の逆転です。これらの競技は31Rはいつも3位で、逆転することは難しいと思っていましたが、本番は2位になりました。2つ目は綱引きです。赤組はぶっちぎりの1位。2m引き抜いた時の気持ちのよさは、今でも鮮明に覚えています。3つ目は何と言っても応援です。応援団をはじめとしたまとまりのある応援は、何度見返してもとてもきれいな応援だと胸を張って言えます。これだけたくさんの思い出のある体育祭ですが、私ははじめ、あまり乗り気ではありませんでした。けれども、応援団のこの体育祭にかける思いがだんだん伝わってきて、やるからには全力でやろうと思えました。ここまで引っ張ってくれた応援団、本当にありがとうございました。



31R (赤組)



私は、今年の体育祭が今までの体育祭で一番楽しい体育祭だったと思います。今年の体育祭は練習期間が1週間という短い期間でした。最初はやる気もあまりなく、あっという間に終わりそうなどと考えていましたが、応援団の気迫のこもったエールを見て、徐々に体育祭が始まるんだという実感が湧き、最後の体育祭をがんばろうと思えるようになりました。

応援練習や学年種目、リレー、長縄のクラス競技の練習などで、体育祭練習期間はめまぐるしい日々でした。リレーのバトンパスがうまくいかなかったり、長縄でみんなの息が合わなかったりして、クラスの雰囲気が悪くなったり…練習も大変だったと思います。ですが、本番では長縄も学年種目も、ハラハラしたリレーも、逆転の末どれも1位をとることができ、本当にうれしかったです。応援合戦も黄色組として団結でき、一体感のある応援ができた気がして、悔いはありません。また、体育祭期間を通してクラスのみんなとの絆も深まったような気がします。

32R (黄組)

体育祭を思い出すと、まず一番は応援だと思う。学年種目やリレーなども大切ではあるが、なぜか応援だけは大切を超えていた。練習では声が出ない、振りが覚えられないなど、他の色に比べて白組は一步遅れていたと思う。練習の最後に応援ができ上がっていくのはどの組も同じだと思うが、白組はひとつひとつが完璧に近づいていっていた。

当日は、時間の流れがどこをとっても一瞬だった。あの時の熱を感じる場所は、体育祭しかなかった。僕は勝ちたかった。最後、応援団がトロフィーや優勝旗を持ちながら笑顔で話してもらいたかった。けど、叶わなかった。競技は負けを感じた。白組の空気は少し悪いように思えた。でも、切り替えた。応援があればまだ希望はあったからだ。応援のフィナーレもきれいだった。みんなが言うような最高の出来だった。そして、結果発表。赤だった。中学校最後の体育祭、僕は楽しかった。でも、悔しかった。けどなぜか、応援は負けた気がしなかった。



33R (白組)